

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0990400137		
法人名	社会福祉法人常盤福祉会		
事業所名	グループホーム万葉 堀米の里		
所在地	栃木県佐野市堀米町1270-6		
自己評価作成日	平成25年 1月 日	評価結果市町村受理日	平成25年4月23日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokouhyou.jp/kaigosip/Top.do?PCD=09
----------	-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人栃木県社会福祉協議会		
所在地	栃木県宇都宮市若草1-10-6		
訪問調査日	平成25年3月8日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当ホームは、市中心部の駅に近接し、公園や住宅地に囲まれた閑静な場所に位置しています。1階には、小規模多機能型居宅介護事業所が併設されています。住み慣れた街でいつまでも自分らしくをテーマに、お客様が快適に生活出来るよう細心の注意を払っています。質の高いサービスを提供するには職員の質の向上が欠かせない為、外部研修への参加や、施設内研修、各委員会を設け、毎月会議を開催しています。開催後も、参加できなかった職員の為に回覧を用意している。資格取得支援制度もあり、職員のステップアップを奨励している。お客様、お一人お一人の尊厳を保持する為、常にお客様の立場に立って考える事に重点を置いている。認知症の進行抑制の為に、公文学習療法を推奨している。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当ホームは、東武堀米駅に近く、周囲に小学校・保育園・公園・住宅地がある便利な場所で、万葉福祉プラザの2階にある。1階に小規模多機能ホームが併設され連携を取りながらサービスが提供されている。2階ならではの日当たりの良い明るく開放的な雰囲気の中、職員は法人共通の『感動満足』をモットーに利用者一人ひとりの希望に沿った細やかな支援をしている。近隣保育園の子供達が遊びに来たり、ボランティアによるサクソや大正琴の演奏等があり、中でも法人全体でのマグロの解体ショーは楽しみのひとつである。職員同士のコミュニケーションも良くとれていて信頼関係が築けている。利用者が自然にリビングに集まり和やかに過ごす姿が印象的で、質の高いサービスのもとで利用者が満足して過ごせるように支援に努めているホームである。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	基本理念となる社員行動マニュアルをもとに、全職員が基本理念カードを携行し、全体会議にて唱和しています。法人全体で、感動満足を掲げています。	基本理念を基にした社員行動マニュアルを常に携帯し全職員はこれを周知し細部にまで実践している。「万葉の主役は利用者である」との信念を持ち支援している。	法人全体で掲げる「感動満足」は十分実践されている。職員それぞれの信念を出し合い、話し合いながら、事業所独自の理念作りに取り組まれることを期待したい。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会に加入し、広報誌を回覧する等事業所が地域から孤立することなく、地域の一員として行事参加の呼びかけや、近隣の保育園との交流等も積極的に行なっています。	地域の祭りへの参加や、近くの保育園との交流など積極的に行っており、法人全体のイベントは多くの方に来て頂いている。また、近所の方とは散歩時にあいさつを交わしたり、野菜や花を頂くこともある。近隣小学校・幼稚園との交流も考えている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議等でも、地域代表の方と話し合い、認知症の方の理解や支援を地域の方々に理解して頂けるよう心掛けている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	ご家族様や地域の方々にご意見を頂き、意見交換をし、支援内容の向上に役立てている。	運営推進会議では事業所の活動報告をし、利用者・家族から要望・助言を頂いている。家族からは行事への参加希望や家族会の設立希望などが挙げられている。消防団や自治会の参加も視野にこれ支援の向上に役立てている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市担当職員とは、運営推進会議に参加していただいたり、随時、ホームの状況、ケアサービスの状況等相談させて頂いている。	施設長は随時報告や相談を欠かさず、市とのコミュニケーションを図っている。また、問題があった場合も迅速な報告をしており、市担当者も熱心に対応してくれている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	全職員が、身体拘束の内容とその弊害を認識している。身体拘束はもちろん、精神的拘束も行なわないように実践している。玄関等は、職員の見守りにより、施錠していない。	法人で共通の身体拘束委員会があり、月1回の勉強会がある。職員の見守りや付き添いにより危険を回避している。スピーチロックにも十分気を付けている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	虐待防止関連法について、学習させて頂いている。法人内の全体会議等でも、全職員が研修を受けている。常に注意を払っている。		

グループホーム万葉堀米の里

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	関係者とは、随時情報を交換させて頂いている。学習はしているが、実際はあまり活用できていない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	重要事項説明書や利用者規約等、ご入居前に十分なお時間をいただき、説明させて頂いている。その後も、随時疑問点等対応させて頂いている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議の場だけでなく、ご家族様の面会の際に、意見や要望の確認を行なっている。常時、不安な点等ないか伺い、状況を把握させて頂いている。電話での連絡も密に行なっている。	家族と事業所の繋がりが強く、家族からの意見や要望を把握できている。職員と管理者の連携がとれており、出された意見・要望には迅速な対応がされている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	代表者や、管理者は、常に職員の意見や提案を聞く姿勢で接して頂いている。ユニット間の提案等も、常時意見を言える空間を心掛けています。	管理者は常に職員に声をかけ、職員からの問いかけにはその都度回答している。職員間の信頼関係が築かれユニット会議では活発な意見が出されている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	キャリアアップの際、合格支援制度等職員のやりがいを応援して下さっている。職員各自の向上心を育成する為、研修機会や会議を開催し、職場環境や条件の整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	一人でも多くの職員が研修に参加出来るように配慮している。また、業務等で参加できなかった職員に対しても、全体会議等で研修者の報告発表を行い、職員全体のレベルアップを図っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	全体会議他、事例検討会議等、他部署が合同で、同じ課題について話し合い意見交換出来るような会議が本体にて開催され、各自参加しサービスの向上に努めている。		

グループホーム万葉堀米の里

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービス導入前には、必ずご本人様が困っていること、不安なこと、要望等を必ず伺い、ご本人様・ご家族様も安心して頂けるよう関係を築いている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	サービスを導入する前には、必ずご家族様の不安を取り除けるよう、話し合いを行なって納得頂けるよう関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	その時、まず必要な支援を提供出来るように、ご本人様、ご家族様と話し合いを行っている。他のサービスも含め、トータルケアを行なえるよう心掛けている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	お客様には、ご家庭にて生活されているような安心感を与えられるよう、日常生活で行っていた事等、一緒に行なって頂いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族様には、常時ご本人様の状態報告をし、協力して頂いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご本人様の知人の方にも、ご来荘いただいている。若いころの記憶はしっかりとされている為、会話も弾まれている。	新聞・編物・琴など一人ひとりの好きだった物事や生活習慣を継続出来るように支援している。家族の了解を得て馴染みの場所にも出かけている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ご利用者様には、毎日の配置を変えず、顔見知りの方々を記憶して頂けるよう配慮しています。その為、隣の方を気遣われる方が多い。		

グループホーム万葉堀米の里

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス終了後も、必要時ご相談を受け付けています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご本人様のお気持ちを大切に個人個人のご希望を最重視としている。	会話や様子から希望をくみ取り、主治医や家族と相談しながら出来る限りの希望を叶えている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	サービス開始前に、生活歴や今までの生活状況・環境、サービス利用の経過等を調査させて頂いている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	お客様の状態観察を行い、残存能力の保持や、生活リズムを崩さないよう配慮している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ユニット会議や、ご家族様ご来荘時ご意見等伺っている。ケアプランが現状の状態に適しているか常時把握を行なっている。	記録や家族の意見をもとに介護計画を立てている。毎日モニタリングをして随時見直しをしている。介護の方向性は利用者・家族によって異なるため、相談しながら、また、主治医の意見も聞きながら一人ひとりに合ったケアプランを立てている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別計画だけでなく、申し送りノートや、職員間でも綿密に話し合いを行い内容を申し送り、実践やケアプランに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	状況変化があった際は、ご家族様・主治医と相談し、ご本人様にとってよりよい方向性を導き出している。		

グループホーム万葉堀米の里

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	佐野市内の地域資源を特に活用している。佐野の厄除け大師等、その他イベント時等参加している。菊の観賞会にも参加している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	常に、状態悪化時、変化時は、必ずご家族様に報告し、主治医にも相談している。密に連絡を取り合う事で、適切な医療を提供できている。	通院は家族同伴の受診だが職員が付き添うこともある。家族への連絡は電話やメモにより常に行っている。また、近隣医師が往診や24時間協力体制を取ってくれている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	1階の看護師にも相談し、援助して頂いている。また、往診に来て頂いた看護師にも、常に相談できる関係を築いている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	病院関係者とも、状態報告や、治療方針の相談の際、ご家族様と同席させて頂いている。相談できる体制である。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化・又は終末期等、危険性が高い場合、ご家族様・主治医と話し合いを行っている。事業所で出来ることも、入所時にも報告している。	入居時には急変・重度化・終末期を想定してご家族に確認を取っている。これまで看取りの経験もあり医師・職員の連携体制も整っている。入所者のほとんどは看取りを希望している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	状態が変化しターミナルケア等行うことでも、職員一同急変時対応を身につけられるよう日々訓練している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害時対策を検討し、また、地域の方々にも連絡網に参加して頂けるよう働きかけていきたい。運営推進会議等では、民生委員の方や、地域包括の方にもご意見を頂いている。	消防署の協力で、避難訓練は年2回小規模多機能ホームと合同で行っている。夜間想定や2階からの避難方法なども訓練している。連絡網は事業所の近くに住む職員から回るように工夫されている。備蓄等の準備もされている。	年2回の合同訓練のほかに、いざという時に慌てずに避難誘導できるよう、職員と利用者が一緒に繰り返し訓練が行える体制づくりに期待したい。また、引き続き地域の方々への協力依頼の働きかけにも期待したい。

グループホーム万葉堀米の里

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	常に、お客様に失礼のないよう、言葉かけ等気を付けている。尊厳保持に職員一同努めている。	言葉かけひとつで拒絶が出ることもあるので言葉は利用者の身になって大切にしている。記録書類等は保管庫に収納され情報管理されている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	9名という少人数な為、必ず自己決定出来るよう配慮して支援している。また、十分な時間がある為、しっかりと対応出来ている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	お客様のペースを乱さないよう、配慮している。常に、お客様のペースに合わせる支援を実行出来ている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	月に一度は、美容師が来荘し、お客様の希望に沿ってカットやカラーを行っている。その他、身だしなみも注意して支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	お客様の方からも、食器洗い等自ら一緒に行なって下さる方もいらっしゃる。お客様の嗜好も常に調査している。	簡単な調理や盛り付けは料理好きな利用者と一緒にっており、利用者から職員が教えられることもある。希望のメニューを献立に取り入れたり、月1回の外食もある。職員は一緒に会話しながら楽しい雰囲気作りをしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりの状態により、嗜好や、介助が必要な方等状態を見極めた支援を行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	ほとんどのお客様が、お一人ではケア出来ない為、職員が口腔ケアを行っている。歯科医師とも連携をとり常時指導して頂いている。		

グループホーム万葉堀米の里

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄介助は、一人ひとりの状態、尿量・失禁状態等踏まえた上で自尊心を傷つけないよう支援している。	一人ひとりの排泄パターンを把握して周囲に配慮した声かけをしている。体調が悪いときは注意して早めに誘導するなど個別の排泄支援を心がけている。トイレはリビングから行きやすくトイレでの排泄に配慮されている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分量等チェックし、排泄コントロールも主治医と連携しながら、指示を頂いている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	お客様の状態や、ご気分がすぐれない時等、配慮している。タイミングは、とても大切に支援している。	入浴したい日、時間に合わせて支援しており、入浴剤や果物を入れたお湯も楽しんでいる。入浴拒否の方には無理強いせず誘う工夫をしている。個浴と機械浴があり、体調に合った入浴支援が可能である。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	お客様の状態が、安定するよう日々観察し職員間で必ず話し合っている。主治医とも相談している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	副作用等、常に理解できるよう内服チェックを行っている。症状の変化等あった際は、必ず報告することと指導している。		
48		張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	お客様のご希望に沿った外出支援等心掛けている。魚釣りや、図書館で読書、カラオケや輪投げ等楽しませている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	お客様の状態によっては、来年は歩行が困難になられる事もあるという事をご家族様に相談し、ご理解頂いたうえで、ご本人様のいきたい場所に行ける支援を行なっている。	近所の公園への散歩は毎日のように行っている。おやつや靴下などの日常の買い物やお花見などの行楽など、希望があれば積極的に外出支援を行っている。	

グループホーム万葉堀米の里

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご家族様のご理解の上、ご本人様にもお金を所持して頂いている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	常に、ご家族様と連絡が取れるよう、携帯電話が用意されている。現在の所、手紙のやり取りを行っている方はいないが、支援は可能である。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	常にリラックスして頂けるよう、音や、光の調整を行っている。室温や湿度調整も配慮して行っている。	リビングは落ち着いた内装で、一般家庭に遊びに来たような居心地の良い空間になっている。2階からの眺めも良く、電車の往来が眺められ、明るく開放的で、駅に隣接しているのに全く騒音の無い造りになっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	個々の性格や生活歴を考慮しテーブルの席の配置等行っている。個室がある為、プライベート空間は保持できている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご本人様の使い慣れた物をお持ちいただいている。個室は、プライベート空間の為、好みのものを活かして頂いている。	個室には備え付けのベッド・タンスがあり、それぞれ馴染みの物を持ち込んだり写真を飾ったりしている。すっきりと片付いて危険防止になっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	お客様の状態観察は常に行ない、状態に合った支援を行っている。少しでも自立した生活を維持して頂けるようサポートしている。		